

画板灯篋プロジェクト



秋から冬まで、若松の夜をきれいに灯す

みんなで作る画板灯篋は、秋のくきのうみ花火の祭典から冬の若松イルミネーションまでの数ヶ月間、若松久岐の浜に展示されます。



くきのうみ花火の祭典



架け橋
画板灯篋プロジェクト



若松イルミネーション

このプロジェクトは、使われなくなった竹で画板をつくり、みんなで若松のシンボル(若戸大橋や花火)などをデザインした絵を描き、ドリルで穴を開けて光を灯すことできれいな明かりを映しだすことができる飾りを製作します。この飾りは、秋にある「くきのうみ花火の祭典」と一緒に、若松を盛り上げるために作られています。それから、冬の「若松イルミネーション」とも協力して、秋から冬にかけて数ヶ月間、若松の素敵なおとこをたくさんの人に知ってもらうためのものです。町をもっと元気にしたり、自然のことや環境について学んだり、ずっと続けていけるような楽しいイベントにすることを目指しています。

プロジェクトが目指す3つの目的



若松の魅力を発信

若松のシンボルを絵にししたりして、アート作品としてたくさんの人にってもらい、若松の素敵なおとこを広めます。



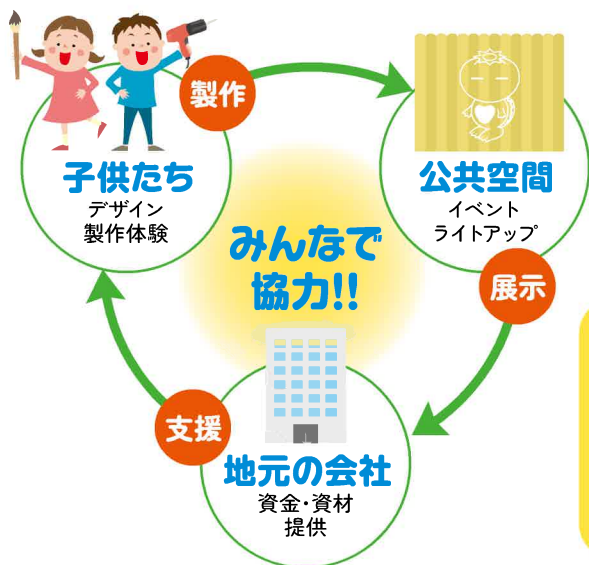
若松の良いところを再発見

みんなで若松の何をデザインするか話し合っ、若松の良いところを再発見し、もっと若松が好きになる芽を育みます。



環境問題を考える

使われなくなった竹林の竹を使うことで、環境(自然)の問題について学ぶ機会を作ります。



地域の人たち、 学校、会社、役所が協力して、 ずっと続けられる 楽しいイベントのやり方を作る

地域、学校、会社が協力する「みんなで作るモデル」

みんながそれぞれ役割を分担して、無理なくイベントを続けていけるようにします。
色々な年代や色々なグループの人が関わることで、地域のつながりが強くなります。
「地域で支え、地域で育てる」という考え方で、イベントがずっと続いていけるようにします。



画板灯籠作品づくりの流れ

素材

使われなくなった竹を使用
地域課題となっている放置竹林から伐採した竹を使用します。



デザイン

若松のシンボルを描く
竹の板をキャンパスに見立て、若戸大橋や花火など、みんなが思う「若松の魅力」を自由にデザインします。



製作

ドリルを使った穴あけ
デザインに沿ってドリルで穴を開け、光を通す「画板」を完成させます。



みんなが作った画板灯籠は、若松久岐の浜に展示されます。



若松イルミネーション(点灯式)

画板灯籠に明かりを灯して、秋から冬の景色をきれいに飾ります。
地域の人たち、会社の人たち、製作した小学生たちが集まって、みんなでカウントダウンを行います。



「くきのうみ花火の祭典」と一緒にやることで、
地域のお祭りをさらに盛り上げます。
「若松イルミネーション」と一緒になって、
きれいな久岐(くき)の浜を明かりで飾ります。

SNS(インターネットの交流サイト)を使って、若松の素敵なところをたくさんの人に伝えます。地元の人たちがたくさん参加して、町が一つになるようなイベントになります。

